

マーライオンの国

シンガポールの象徴としてこれまで多くの観光客を集めるスポットがある。上半身がライオン、下半身は魚の形をして波の上に乗る、口からは勢いよく海に向かって水を吐いている。高さは8mで真っ白なコンクリートで造られたマーライオンである。

このマーライオン像は1972年9月15日に、世界的に有名なシンガポールのリー・クアン・ユー首相の提案により造られたもの。正面からも見えるようにと栈橋が延び、世界各国から集まる多くの観光客で大いに賑わっていた。押し合いへしあい、それぞれがカメラのベストアングルを争っていた。私も焦点を定めたもののが突然入り込み、思うような写真が撮れなかったのが残念でならない。



11世紀にマレーシアの王が対岸に見える大地を目指して航海する途中、時化に合いやつの思いでたどり着く。その時に白いライオンが現れ、王にその土地を治めることを許して立ち去った。マーライオンの頭はこの時のライオンを表している。

一方、魚の尾の部分はシンガポール近辺に嘗て栄えた古代都市テマセック（ジャワ語で「海」）を象徴している。「ライオン（Singa）の都市（Pura）」を意味する「Singapura（シンガプーラ）」と名付け、マーライオンを国の守り神として祭ったという伝説がある。

マーライオンをジューと見ていると、何処となく愛嬌があり可愛くなってくる。お土産にもマーライオンをモチーフにしたお菓子やチョコレート、その他マスコット人形等、シンガポールを象徴する広告塔になっている。

撮影 2011年夏

